



駐日リトアニア共和国大使及び在岐阜リトアニア共和国名誉領事に リトアニア共和国との交流状況を報告

5月31日・6月2日



2023年5月31日及び6月2日に、リトアニア共和国との交流状況を報告するため、神原 信志 副学長(国際担当)及び毛利 哲也 教授(工学部)が、村瀬 幸雄 在岐阜リトアニア共和国名誉領事及びAurelijus Zykas特命全権大使とそれぞれ面談しました。本学は同国のヴィータウタス・マグナス大学(以下、「VMU」という。)及びカウナス工科大学(以下、「KTU」という。)と大学間学術交流協定を締結し、学生及び教員の交流を行うとともに、同国について理解を深め、両国の交流の架け橋となる人材を育成することを目的に、「リトアニア学」を全学共通科目として開講するほか、このコロナ禍においても、現地の学生とオンラインで交流するイベントを実施する等、国際交流活動に取り組んでいます。このたびの面談では、同国との交流状況を報告するほか、本年3月に本学の教員7名がVMU及びKTUを訪問し、VMUとジョイント・ディグリープログラム(注)の設置に向けた意見交換を行ったこと、KTUと今後の交流推進に向けた意見交換を行ったことを報告しました。村瀬 名誉領事からは経済界との連携についても触れられ、また、Zykas特命全権大使とは今後のリトアニアとの更なる交流について意見交換をしました。本学は、岐阜県出身の元外交官 杉原 千畝氏の功績を縁に岐阜県が親交を結ぶ同国と、一層友好な関係を構築し交流活動を推進していきます。

(注)ジョイント・ディグリープログラム (JDP)

連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。

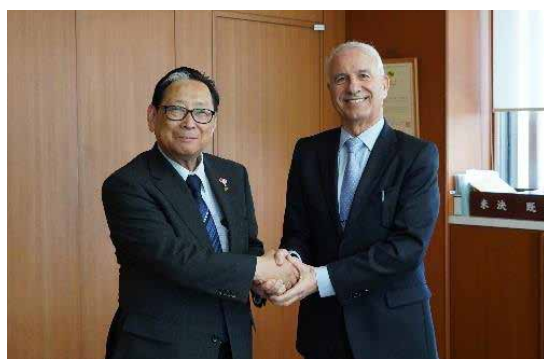


ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問

5月2日



2023年5月2日、ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問しました。この訪問は本学と駐日モロッコ王国特命全権大使双方の要望のもと、岐阜県の協力により実現したものです。ラシャッド・ブフラル大使は、吉田 和弘 学長、杉山 誠 副学長、神原 信志 副学長及び小山 博之 グローバル推進機構長と意見交換の後、学内の航空宇宙生産技術開発センター及び糖鎖生命コア研究所を見学されました。意見交換においては、本学の概要紹介の後、モロッコの自然・エネルギー・産業・大学教育等の話題に触れながら、モロッコの大学と本学との今後の交流の可能性について話し合われました。今回の訪問を機に、同国の大学との学生・研究者交流が開始されることが期待されます。





Spring School Program 2023

3月3日～14日

グローバル推進機構では、ジョイント・ディグリープログラム(JDP)を共同設置しているインド工科大学グワハティ校(以下、「IITG」という。)と連携して、全学を対象に短期派遣プログラムのスプリングスクールを提供しています。本年度、COVID-19等の影響を受けて中断していたスプリングスクールが4年ぶりに再開し、2023年3月3日から3月14日にかけて第2回スプリングスクールがIITGにて開催され、36名の応募の中から選抜された本学学生10名が参加しました。初日である3月3日には、スプリングスクール開講式が、岐阜大学と共同開催の日印二国間シンポジウム2023(IJBS-2023)会場にて同時に執り行われました。期間中には、アッサム州を代表する国立公園見学や民俗博物館、ブータン式寺院などの見学を通じて、多様性に富むインド文化を学ぶ機会が提供されたほか、現地企業(種苗農家および製菓工場)やアッサムティーの産地ならではの茶畑見学を行いました。学内では、デザイン学科での竹資源の活用方法のワークショップや、IITGでのJDP関連学科を中心としたラボツアーが連日開催されました。2週間という短い期間にも関わらず、IITGおよび北東インドの社会・文化を余すところなく学べるプログラムが提供されました。また、インド三大祭りの一つであるホーリー祭(カラーフェスティバル)もあり、祭文化を体験する機会を通じて現地学生との交流も深めました。3月14日の最終日には、10トピックに分けられた項目からそれぞれの学生が学んだ内容をポスターにまとめ、英語でのプレゼンテーションと質疑応答を見事にこなし、修了証書を受け取りました。

※本事業は文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の支援を受け実施しています。



海外留学フェア2023春

4月19日

『海外留学フェア2023春～踏み出そう!留学への第一歩～』を開催しました。初めに、留学支援係から本学の留学プログラムや支援制度に関する説明があり、続いて、ETS Japan 合同会社及び公益財団法人 日本英語検定協会より、英語能力試験(TOEFL及びIELTS)の概要について説明を行いました。また、サマースクールプログラム、交換留学及びバロー・Vドラッグ海外研修奨学金制度等により留学した学生からは、留学経験に基づく発表が行われ、語学力が向上したこと、多様な価値観への気付きがあったこと、新たに交友関係が広がった等、留学を通じて成長した姿が伺えました。参加者は、各担当者の説明や留学経験者の体験談に熱心に聞き入り、フェア終了後には個別質問をする等、留学への関心の高さが感じられました。



海外渡航時の危機管理オリエンテーション

6月28日

本オリエンテーションは、留学や海外旅行を予定している学生・教職員などを対象とし、事件や事故に巻き込まれないための意識啓発のほか、健康管理なども含め幅広く危機管理意識を醸成することを目的として開催しています。初めに、本学 山本 真由美 保健管理センター長から医療的準備と自己健康管理について講演がありました。その後、特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会(JCSOS) 元理事の服部 誠 様から危機意識やリスク、安全対策等について講演があり、続いて海外危機管理サポートデスクや海外旅行保険に関する説明がありました。海外で発生した事案や治安に関する情報、日本と海外との医療や保険制度の比較など、日本での生活では普段意識することが少ない話に参加者は熱心に聞き入っていました。



海外で学ぶ



地域科学部
東原 結梨奈

シドニー工科大学
オーストラリア



シドニー留学で過ごした最高の日々

私は交換留学生としてオーストラリアのシドニー工科大学(UTS)で約一年間、多くの人と関わり様々な価値観に触れる最高の日々を過ごしました。留学中は、日々の勉強に加え、自分から積極的に旅に出かける等の行動を起こし新しい世界を楽しむことができました。特にUTSでは世界中から集まる学生たちと交流し、授業ではフィールドワークやディスカッションを通して多民族国家であるオーストラリアへの理解を深めることができました。言葉や価値観の壁を感じる瞬間も多々ありましたが、多くの人に助けられ大切な友人と有意義な経験を得ることができました。



サマースクール

6月21日～7月19日

本学の学術交流協定大学の学生を対象に開講しており、コロナ禍により、2019年を最後に対面開催が見送られていたサマースクールを、約4年ぶりに対面実施しました。ノーザンケンタッキー大学（アメリカ合衆国）、マレーシア国民大学（マレーシア）、広西大学（中国）から計7名の学生を迎え、日本語学習の他に日本文化体験として関市（日本刀鍛冶見学体験）、郡上市（郡上踊り発祥祭・地元の皆さんとの交流）を訪問。また、能楽（能・狂言）体験や農場ツアー（アイスクリーム作り）といった多彩なプログラムを提供しました。また、参加学生達は、今回、初めてU・TOPIA LAND別館（注）のシェアルームで生活を行い、日本人学生ボランティアと活動を共にすることで、深い絆を築きました。

（注）U・TOPIA LAND（ユー・トピアランド）別館

本学に通学する外国人留学生及び日本人学生に必要な住居を安定して提供し、また、安心して優良な住居を選定できることを目的に岐阜大学指定寮として認定された寮です。



日本語・日本文化教育センター（日文センター）主催

郡上踊りワークショップ

5月17日

2023年5月17日、日文センター和室において、昨年11月にユネスコ無形文化遺産に認定された、国重要無形民俗文化財の「郡上踊り」を学ぶワークショップを開催しました。当日は約20名の留学生が参加しました。このワークショップは、2012年から2019年まで毎年開催し、コロナ禍では中断を余儀なくされていましたが、4年ぶりに開催することができました。ほとんどの留学生は初めて郡上踊りを体験しましたが、1時間半のワークショップを通して講師も感心するほど上達しました。同じ側の手足を動かす独特の動作に苦戦する留学生もいましたが、「上手下手ではない、笑顔で楽しく踊ることが一番大切」という講師の言葉に励まされて、それぞれがのびのび踊ることができました。最後には、楽しくそして真剣に踊った留学生10名が講師によって選ばれ、岐阜ゆかりの賞品が手渡されました。留学生にとって、日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。



能楽ワークショップ

7月5日

2023年7月5日に「留学生と日本人学生のための能楽（能・狂言）ワークショップ」を開催しました。日文センターでは、2005年度からプロの能楽師をお迎えして能楽（能・狂言）ワークショップを行っています。今年度は4年ぶりに完全対面方式で実施し、約50名の参加がありました。6月末から本学に留学しているサマースクール参加学生も加わり、さまざまな国籍の学生が集い、日本の伝統文化を堪能する機会となりました。講師として観世流シテ方の味方團先生および田茂井廣道先生（以上能の講師）、大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生および山口耕道先生（以上狂言の講師）の計4名を、日文センター和室にお迎えしました。参加者からは「先生たちは本当に優しく、内容が面白くて、とても楽しかったです」「興味があること、質問したいことがたくさんあったので、それを聞ける質問の時間があると嬉しいです」といった感想が寄せられました。



岐阜大学で学ぶ



自然科学技術研究科
 サミュエル キラグ
 カリウキ



ケニア

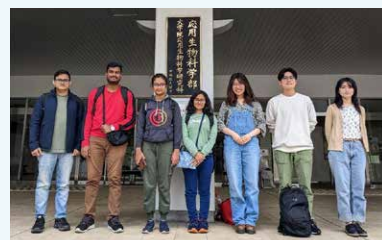
人生を変えた経験—チャンスが2度訪れる珍しいケース—

最初のチャンスは、2019年12月。岐阜大学と私の母校であるデダンキマティ工科大学との協定から生まれた交換留学生として初めて岐阜大学にきました。今でも、その時のことを鮮明に覚えており、深く感謝しています。2回目のチャンスは、その2年後の2022年4月。岐阜大学の修士課程に入学した事です。修士課程で学ぶ中で、大学の先生方やスタッフの方々の根気強いご指導に感謝しており、特に研究指導教員の伊藤和晃教授と八田禎之准教授には感謝しています。ECF（イングリッシュ・コミュニケーションフレンド）として地元の小中学校でボランティアをしたり、大学院主催の研修で日本国内で有名な場所や企業を訪れたりすることで、興味深い日本の伝統を学ぶことができました。また、大学の国際交流会館での生活はとても楽しく、素晴らしい思い出と日本や様々な国の友人を作ることができました。最後に、おもしろエピソードの一つ…たった1日で、日本国内6つの島を自転車で横断できる場所はどこでしょう？答えは、しまなみ海道です。





2023年4月5日、岐阜大学・インド工科大学グワハティ校(以下、「IITG」という。)国際連携食品科学技術専攻(修士課程)の新年度ガイダンスが行われ、岐阜大学を主大学とする学生3名とIITGを主大学とする学生4名が本学での勉学を開始しました。コロナ禍を経てインドから実際に渡日する留学生としては2回目となります。国際連携専攻の学生は本学と海外相手大学の両方に在籍し、標準修業年限(修士2年)の中で一定期間を相手大学で修学します。留学を伴う国際的な教育環境の中で講義履修と研究活動を行い、在籍期間を延長することなく両大学による国際共同学位を取得することができます。岐阜大学を主大学とする学生3名は本年7月中旬まで岐阜大学での講義履修と研究活動を行ったのち、7月下旬からはIITGでの留学(5か月)を開始します。一方、IITGを主大学とする学生4名は8月下旬までの5か月間、岐阜大学で講義履修や岐阜大学教員の下での研究活動、日本企業でのインターンシップを行います。7月中旬までの期間は、日印学生は共に顔を合わせて学び合い、国際共同学位取得という共通目標に向かって切磋琢磨します。インド学生の本学留学に対し、独立行政法人日本学生支援機構 2023年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)双方向協定型からの支援を受ける予定です。



Collaborative Video Making Program 2022

2022年12月～2023年3月



本プログラムでは、2022年12月から3か月間にわたり、本学(9名)、インド工科大学グワハティ校(4名)およびマレーシア国民大学(1名)の学生が4グループに分かれ、動画の共同制作を行いました。各グループは、オーストラリアcreative agencyプロデューサーからスマートフォンでの動画撮影技術の指導を受けながら、「SDGsを考える」をテーマに動画作品を作成しました。2023年3月10日には、学生が制作した動画の発表の場としてFinal Competitionが行われ、本プログラムの関係者および視聴者合わせて45名が参加しました。特別審査員として、吉田 和弘 学長、神原 信志 副学長(国際・情報・評価(副)担当)、植松 美彦 グローカル推進機構長(当時)及びマジレリカ・ジャパン株式会社 池田 純子 代表取締役が参加し、動画作品の講評を行いました。Competitionの最後には、特別審査員による採点及び視聴者投票が行われ、グループ4の作品「Trash Potential」が最優秀作品に決定しました。本プログラムで制作された動画はGU-GLOCALChannelから視聴できます。これらの動画作品が、各大学の学生の海外への興味や関心のきっかけになることが期待されます。

※本プログラムは、全てオンラインでの活動であり海外渡航はしません。インド、マレーシア、日本の3か国の学生が3～4人でチームを作り、自分たちが動画で表現したいコンセプトやアイデアをまとめ、素材を協力して集めて形作るという経験をします。動画制作を通じて、今までの生活で得られなかった視点や考え方、バックグラウンドが異なる者同士で協働する力を養う機会となることを期待しています。

2023年度も開催

本学、名古屋大学、インド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学から総勢12名の学生が参加予定です。右記ホームページ参照 <https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/videomaking/>

2022年作品動画



地域国際化におけるSDGsの取組み

JDPコンソーシアム竹資源利用勉強会を開催

3月20日

2023年3月20日、第1回目となる「岐阜大学JDPコンソーシアム(注)竹資源利用勉強会」を開催しました。このたびの勉強会は、竹資源利用に関心がある日本企業への情報共有と推進を目的に開催し、日本政府インド竹資源活用プロジェクト担当のJICA関係者をはじめ、19社の国内企業から参加がありました。本勉強会では、3月に開催したインドでのセミナーに参加した企業からインドでのプレゼン内容報告のほか、本学から今後の産官学連携フレームワークの提案、さらに参加企業からバイオ事業推進に利用可能なセラミック製品の紹介を含めて話題提供があり、意見交換しました。今後も引き続き勉強会を開催する予定としているため、ご関心のある皆様からのご参加を心よりお待ちしております。

(注)JDPコンソーシアム

海外の大学と日本の大学がジョイント・ディグリープログラムを組み、それぞれの大学が立地する地方の経済的活性化に貢献する為の各種活動を展開しています。活動内容は、以下ホームページ参照。
<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/jdp-platform/consortium/>

グローバル化のためのSDGs勉強会

この勉強会は、ジョイント・ディグリープログラムを共同実施するインド工科大学グワハティ校およびマレーシア国民大学が所在する北東インドやマレーシアと、事業展開などの連携をする際に大切なSDGs(持続可能な開発目標)の項目について、学内外の専門家(大学、研究所、シンクタンク、企業など)を講師として招き、本学の学生、教員が地域の皆様と共に学び、議論する場として開催します。ぜひ、多数の皆様の参加をお待ちしております。(2023年度 計9回 開催予定)

＜お申込み方法等、詳細＞
以下、グローバル推進機構ホームページ参照。
<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/region/sdgs/session/>

